



進学事典

# 『進学事典』を使った学校比較で イメージ先行の志望校選びから脱却

— 岐阜・私立 中京高校 —

取材・文／太田知子



キャリアサポート部長  
松浦速人先生(右)  
キャリアサポート部  
工藤稔先生(左)

## School Data

生徒数 / 1315人(男子758人・女子557人) / 普通科37学級、商業科6学級 / 進路状況(2011年度) / 大学・短大進学61.9%、専各進学16.9%、就職18.2%、その他3.0%  
岐阜県瑞浪市土岐町7074-1  
TEL 0572-68-4501  
URL <http://www.chukyo-ch.ed.jp/>

## 2011年度2学年後期の 進路学習の流れ

2011年10月  
2学年共通テーマ学習「上級学校を調べる」

2011年10月  
2学年進路ガイダンス  
大学・専門学校：模擬授業、就職：ガイダンス

2011年11月  
2学年共通テーマ学習「職業を調べる」

2012年2月  
2学年共通テーマ学習  
「上級学校を調べる」第2回  
『進学事典』を使った学校比較のワーク

2012年2月  
2学年進路ガイダンス  
大学：学部・学科説明会、専門学校：  
学校別説明会、就職：面接指導・試験対策

2012年3月  
春休みにオープンキャンパス参加

『進学事典』を使った学習は、10月の「上級学校を調べる」の復習にも、直後の学部・学科説明会や学校見学に向けた動機づけにも良い内容だと判断された。

中京高校は、特別進学、国際、体育、商業など6コースを擁し、多様な生徒が集まる。進路は多方面にわたるが、8割が大学や専門学校への進学を目指す。同校では10年ほど前に、進路指導部をキャリアサポート部と改称し、キャリア教育の充実を図ってきた。現在1学年は自己理解、2学年は自己啓発、3学年は自己実現をテーマに、段階的に進路を考える力をつけている。

## 年々改良され使いやすくなった 『進学事典』を評価

『進学事典』と「学校比較シート」を使った取り組みは、2012年2月に2学年全員を対象に実施した。

「実は10月に似たような学習をしていましたが、その時はまだ危機感を感じられないう生徒が多数派でした。そんな折に『進学事典』と付録の「学校比較シート」の使い方について提案を受け、これなら短時間で比較検討の大切さに気づき、志望校選択

につなげられると思ったのです」とキャリアサポート部長の松浦速人先生は語る(詳細は左図)。

今まで『進学事典』は廊下に平積みにして生徒が自由に持っていく形だった。しかし年々改良され、どんな進路希望の生徒にとっても使いやすくなっていることもあり、授業で使うことにした。

またここ2、3年は進学希望者が増えていたため、2学年の2月という配本のタイミングも「志望校決定の時期を今までもより早めたい」という松浦先生の思いに合っていたそう。

## 専門学校志望者が春休みに 学校見学に行くきっかけに

授業では『進学事典』を見ながら、付録の「学校比較シート」に取り組んだ。まず『進学事典』の中から興味のある学校2校を選択。各学校のページから、学費、学べる内容、資格、興味のある制度などを書き出し、自分に合うのはどちらか、一番譲

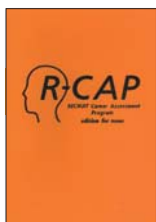
れない項目は何かを考えた。

工藤稔先生は昨年度2学年の特別進学コースを担当した。クラスのほとんどが大学進学志望だが、国公立大学と私立大学の学費の違いに驚いたり、同じ教育学部でも教員免許取得のためのサポート体制が違うことに気づいたり、新たな発見がたくさんあった。「学校を項目ごと比べることで、自分の選択軸に気づくというワークシートの構成がわかりやすかったと思います。それまで知名度や偏差値だけで志望校を選ぶ生徒が多かったのですが、この取り組みを機に生徒の意識が変わりました」と当時を振り返る。

現在工藤先生は3学年の同じクラスを持ちあがりて担任している。一番強く感じる変化は、模試の際に書く志望校が現実的になったこと。「学べる内容や資格を基準に現実的に志望校を選ぶ生徒が確実に増えました。地に足がついてきた感じですね。考え抜いた末に選んだ学校なら、勉強への意欲も高まるはず。その面での効果も期待しています」と工藤先生。

専門学校志望者には、志望校決定前に必ず2校以上の学校を見学し、見学報告書を提出することを義務づけている。今までは3学年に進学してから本格的な志望校選びを始める生徒が多かったが、取り組みのあと、春休みに学校見学に出かける生徒が増えた。

志望校選びの具体化や早期化につながったことを評価し、今年度も継続して同様の取り組みを行う予定だという。



R-CAP

# 「R-CAP」の適職・適学診断結果を 家庭訪問の会話の糸口として活用

かみあまくさ

— 熊本・県立 上天草高校 —

取材・文／太田知子



右から  
進路指導部・1学年担任  
**本田扶桑先生**  
進路指導主事  
**菅原優子先生**  
3学年主任  
**豊田拓也先生**

## School Data

生徒数 / 391人 (男子179人・女子212人) / 普通科7学級、  
情報会計科3学級、福祉科3学級 / 進路希望状況 (2011年度) /  
大学・短大進学21.4%、専攻進学33.3%、就職44.0%、その他1.3%  
熊本県上天草市大矢野町中5424  
TEL 0964-56-0007  
URL <http://www.higo.ed.jp/sh/kamiamakusa/>

## ■ 主な進路行事

|     |                                                                                                                                                                   |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「R-CAP」による適職・適学診断 (全員)</li> <li>● 大学による出張講義 (全員)</li> </ul>                                                              |
| 2学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● インターンシップ (全員)</li> <li>● オープンキャンパス参加 (希望者)</li> <li>● 卒業生による学校や学問に関する講演会 (進学希望者)</li> <li>● 就職面接ガイダンス (就職希望者)</li> </ul> |
| 3学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 周辺企業約10社の人事担当者を面接官に招いた面接練習 (就職希望者)</li> <li>● 個別の面接練習 (就職希望者・1人40回程度)</li> </ul>                                         |

「将来の夢や目標をかなえられるように、教員ができることはすべてしている」という進路指導主事の菅原先生。特に就職希望者への面接練習には力を入れており、3学年の6～9月にかけて、連日実施している。

## ■ 「R-CAP」を使った 進路指導の流れ

2012年6月  
1学年全員一斉に「R-CAP」実施  
1学年担任は無料体験版「R-CAP」実施

2012年6月  
先生への診断結果の配布  
リクルートスタッフによる1学年担任に向けた勉強会

2012年7月  
生徒への診断結果の配布  
リクルートスタッフによる1学年全員に向けた授業

2012年8月  
家庭訪問で「R-CAP」診断結果を  
もとに進路について面談

職業適性や学問適性のランキングは、好奇心が刺激されるが、その場だけの盛り上がりで終わりがかねない。そこで勉強会や授業で診断結果をどう役立てればいいのかを丁寧に説明。これにより「R-CAP」を適切に活用できている。

前身となる大矢野高校時代から、1学年の1学期には自己理解を深めるきっかけのひとつとして、適職・適学診断の「R-CAP」を使っていた。統合後も仕事の多様さに気づき、幅広い職種に興味をもつきっかけになると考え、毎年1学年全員に実施している。同校ではリクルートのスタッフが1学年の担任の先生と、生徒に向けた勉強会をそれぞれに行い、「R-CAP」の正しい見方、

## 正しい読み方や活用法の 勉強会をリクルートが実施

進路指導主事の菅原優子先生の「すべての教員が協力し合い、一人ひとりの状況に合わせた進路指導を行う方針です」という言葉どおり、二丁ズに即した進路行事を適時、実施している(詳細は上図)。

さらに今年度、この診断結果は、全クラス担任が夏休みの家庭訪問に持参し、進路を考えるために活用された。本田先生はまず自分の診断結果を見せながら「R-CAP」の概要を説明。次に生徒の結果を見せながら、「家庭では進路について

活用の仕方について伝えている。例えば適性診断はランキング形式だが、順位にとらわれなくてよいという解説があった。また診断結果と本人の志望が合わない場合、どう解釈すればよいかといったアドバイスもあった(詳細は下図)。

情報会計科1学年の担任で進路担当の本田扶桑先生は、今年初めて「R-CAP」の診断を受けた。「教員向けの事前の勉強会のおかげで、診断結果をどうとらえ、生かせばいいかわかりました。また生徒と同じ内容なので、自分の診断結果を見本として見せることができたし、実感を込めて指導ができました」という。生徒向けの授業でも、リクルートのスタッフの話に真剣に耳を傾け、興味深げに診断結果を見入る姿が多かった。

大矢野高校時代から「R-CAP」を活用してきた3学年主任の豊田拓也先生も現在の使用状況への評価は高い。「多学級になり、多様な生徒を指導する際に、「R-CAP」という共通の指標があることに助けられています。また情報会計科なら事務職福祉科なら介護職と、専門科の生徒はとかく職種を絞って考えがちですが、「R-CAP」によって幅広い視野をもてるのもメリットです」という。豊田先生は3学年の就職指導でも、志望理由や自己PRを考えるヒントとして「R-CAP」の診断結果を振り返るなど、継続して活用している。

でどんな話をしているか」「保護者は子どもの進路についてどう考えているか」などの話をした。「保護者に診断結果を見せていない生徒がほとんど。そのせいかどの家庭でもとても話が盛り上がり、進路への興味も高まりました」と効果を実感する本田先生。

## 専門学科でも職種を固定せず 幅広い分野を検討する指標に